

留学体験記

人文社会科学部 グローバル・スタディーズコース 3年

澁谷 彩華

留学先：ペルー・カトリカ大学（私立）

留学期間：2018年8月～2019年7月

私は留学中、語学力の成長と多文化理解を目標とし1年間学習に取り組んできました。ここでは、実際に現地の大学で受けた授業について、ペルーでの生活の様子や旅行などの体験談を皆さんに紹介したいと思います。

まず、カトリカ大学の授業についてです。カトリカ大学では、外国人留学生向けに中級レベル以上のスペイン語のクラスが開講されています。幸いスペイン語の履修が許可されたので安心していましたが、希望は打ち砕かれました。私の他に十人程の外国人留学生も履修していましたが、会話速度、聴解力、文章力が他の学生達よりも明らかに劣っていることを痛感しました。最も辛かったことは、二人組でペアになり練習問題の答えについて話し合う際、お互いスペイン語が未熟なため相手が何を伝えたいのか分からず、また私が相手に理解してもらえない事が何度もありました。さらに、スペイン語で文章を書く際、私はいつも時間の最後まで時間がかかり、焦りと緊張に押しつぶされていました。しかし、グループディベートやプレゼンテーション発表などを行っていくうちに段々と会話についていけるようになりました。特に、後期のスペイン語の授業では各学生が一時間クラスで先生となって授業を受け持つ機会がありました。自分でテーマと授業の内容を組み立てました。途中には他の学生から思わぬ質問をされ、返答に悩んでしまいましたが、制限時間内に授業を終わらせることが出来ました。後期に教わっていた先生は私がペルーに来た当初から見守ってくださっていた方で、私の授業が終わった後に「前期と比べて、成長したね。頑張ったね。発表も素晴らしかったよ。」などと、嬉しい言葉をかけてくださったことは今でも忘れられません。また、私はこの授業を含め前期後期を通して六つの授業を履修していました。私の事を心配して授業の復習を沢山手伝ってくれたり、分からないことを丁寧に教えてくれた友人達と山大の現地スタッフには本当に感謝しています。

次は、ペルー生活の様子を紹介したいと思います。ペルーに来て三か月はペンションに住んでいましたが、その後は大学近くの家庭でホームステイをしていました。私が住んでいた家庭には沢山の家族が住んでいました。ホストファザーとマザーは私から見ておじいちゃんおばあちゃん世代でした。旅行が趣味のようで、ホストマザーはロサンゼルスに行って息子たちに会いに行ったり、ホストファザーは故郷のイキトス（ペルーのジャングル）に一人で旅行に行っていました。前期の間、私は土曜日にペルーの伝統的ダンスであ

るマリネラのクラスに通っていました。クラスは歳も性別も異なる受講生で構成されていて、ペアになって練習していくうちに打ち解けあえるようになりました。

また、ペルーには沢山の日系人が住んでいて、日系のスーパーやレストランがあります。日系のイベントを訪れたり、日系料理を食べに行きました。さらに、日秘文化会館という建物があり、日本人のペルー移住の歴史を知ることが出来る博物館や、日本語教室、コンサートホール、日系レストランなどがありました。この様にペルーには日本文化に興味を抱いている人が多いです。私が最後まで勉強を頑張ることが出来た理由の一つは、友人たちのおかげです。というのも、カトリカ大学ではペルー人学生を対象とした日本語の授業が開講されています。毎週この授業に参加することで友達の輪を広げることが出来ました。また、山形大学に以前留学していた学生達や山大の現地スタッフ、そして日本の大学に留学経験のある、もしくは留学予定の学生達とも交流を深めることが出来ました。彼らと一緒に遊びに行ったり、誰かの家に集まってパーティーやゲームをしたりしました。正直、留学中日本に戻りたいと思った事が何度もありましたが、彼らに沢山の楽しい思い出を共有し、提供してもらうことが出来てとても嬉しい気持ちでいっぱいです。

最後に、スペイン語や南米の留学に興味がある皆さん、南米と聞いて現地の治安や情勢に不安を抱いている方も多いと思いますが、現地には温かくて親切な人達もたくさんいます。学生のうちに勇気を出して留学に踏み切ってみると良いかもしれません。



ー皆でご飯を食べに行ったときー



ーマチュピチュー



ースペイン語のクラスー



ー友人が参加するマリネラの大会を観に行ったときー